

Q. 5 学習指導案には、どのような内容を示したらよいのでしょうか。

A. 学習指導案の様式には、定められたものがあるわけではありません。

一般的には、①単元（題材）名、②単元（題材）の目標、③単元（題材）設定の理由（児童（生徒）観、指導観など）、④指導計画（評価計画を含む）、⑤本時の目標、⑥本時の展開（評価を含む）⑦その他・資料の7つの項目で構成されていることが多いようです。しかし、学校研究のテーマに沿って、独自の様式で作成する場合がありますので、この限りではありません。

本時の展開については、『導入・展開・終末』を指導段階（学習段階）として表記することが多く見られます。



### ○単元（題材）の構成に関すること

単元（題材）名や目標、設定の理由については、具体的な内容を記載するようにしましょう。

題材名は、『生き生きとしたリズムを生かして歌おう』（音楽科）のように、内容と活動がはっきりとイメージできるものにし、題材の目標と関連付けて設定することが大切です。

単元（題材）の設定理由については、事前に『児童生徒の実態把握』『素材研究による教材化』を綿密に行い、単元（題材）の目標に記した、子どもたちに身に付けさせたい力と関連させながら記述していくことが肝要です。また、『児童生徒の実態把握』については、その単元（題材）に関する実態を書き記すことが必要です。

### ○指導計画（評価計画を含む）

指導計画とは、指導目標を達成するために指導すべき内容をどのように配列し構成するかを計画したものです。項目については、以下に示す事例のように『ねらい』『学習内容と学習活動』『評価』『評価方法』などが考えられます。

子どもの思考の流れを想定しながら計画していくことがポイントです。

【Q. 2、Q. 7 参照】

#### 〈事例1：小学校音楽科〉

次	時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	評価【観点】	評価方法
1	1	○○○○○	○ △△△△△する。 ・ □□□に着目して聴く。	【関・意・態】 ○○～	観察 発言の内容
2	1	問いと答えによる仕組みを生かしながら、強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。	○ 『とんび』の歌詞の表す様子を生かしながら、曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・ とんびの様子からイメージしたことをグループで共有する。（前時のワークシートを参考にする。） ・ 第3フレーズの『ピンヨロ』の問いと答えの部分に着目し、どのようなとんびの様子が表現されているかを考える。 ・ 各自が考えた様子をグループで共有し、どのように歌うとよいかについて、強弱を手がかりにしながら表現を工夫する。 ・ 学習した表現を生かして、みんなで『とんび』を歌う。 ○ 学習の振り返りをする。	【音楽表現の創意工夫】 問いと答えの仕組みを聴き取り、その働きによって生み出される曲想を感じ取り、強弱を手がかりにしながら思いや意図をもって歌唱表現を工夫している。	発言の内容 楽譜への書込み 演奏の聴取 ワークシートの記述

## ○本時のねらいと展開

現在の子どもの実態から、取り組ませる学習活動や身に付けさせたい力などについて記述します。1時間の学習を充実したものにするためには、その時間の指導のねらいを明確にしておく必要があります。

学習の展開には、『学習活動』と『予想される児童生徒の反応』を記述します。また、学習の各場面における指導や助言、そして評価の観点が具体的に示されることによって、指導の細部が明らかになってきます。その際、学習の流れが明確でわかりやすいこと、学習活動と児童生徒の意識、指導内容が無理なく位置付いていることが重要です。



### 〈事例2：小学校音楽科〉

#### ※本時のねらい

問いと答えによる仕組みを生かしながら、強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。

教科によっては、文末表現が『できる』という表記になる場合があります。

#### 段階

つかむ・さぐる・まとめる、ふかめるといった表現もよいでしょう。

#### 予想される児童（生徒）の反応

教師が子どもの学習意識の流れを予想して試みた展開に対し、子どもはどんな反応を示し、どんな追究をしていくかを考え記述します。「……するだろう」と予測した記述や「～だなあ」「～しよう」など、考えや発言、つぶやき、意識などを記します。本時の学習の鍵になる考えや意識などを記入することも考えられます。

段階	学習活動 ◇ 予想される児童の反応	教師の支援	評価規準と方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問いと答えが生かされた手遊び歌で音楽遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強弱を取り入れた発展的な音楽遊びができるように支援する。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のめあてを知る。 とんびが飛んでいる様子を歌って表現しよう!</li> <li>・ とんびの様子からイメージしたことについてグループで共有する。(前時のワークシート参照)</li> <li>・ 第3フレーズの『ピンヨロ』の問いと答えの部分について、強弱を手がかりにしながらどのように歌いたいかにワークシートに記入し、内容をグループで共有する。</li> <li>・ 第3フレーズの歌い方をグループで工夫する。 例) ◇ 「呼びかけ合っている感じがするから、1小節ごとに <b>f</b>、<b>p</b>、<b>f</b>、<b>p</b> で歌おう」 ◇ 「とんびが鳴きながら近付いてきて、過ぎ去っていく様子を表現したいから、前半2小節は <b>f</b> で、後半2小節は <b>p</b> で歌おう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めあてと1時間の授業の流れを黒板に提示する。</li> <li>・ 似たようなイメージについては、なるべく具体的な内容にして伝えさせる。</li> <li>・ 活動に取りかかりやすいように、例を示す。 (例：呼びかけ合う様子の場合)</li> <li>・ 意図とする表現に近付いているかを確認させる。</li> <li>・ 必要に応じて技術面の指導を行う。</li> </ul>	<p>【評価規準】 問いと答えの仕組みを聴き取り、その働きによって生み出される曲想を感じ取り、強弱を手がかりにしながら思いや意図をもって歌唱表現を工夫している。</p> <p>【評価方法】 発言の内容 楽譜への書き込み 演奏の聴取 ワークシートの記述</p>

#### 学習活動

この時間に、どのような活動を通して、何に気付き、何を追究するのかを簡潔に子どもの姿で記述します。さらに、『学習場面の設定』や『学習形態』についても配慮しましょう。

#### 教師の支援

学習活動に対する子どものつまづきを想定して、示範や助言、発問、指名による子どもへの指導や支援方法をあらかじめ考えて用意しておきます。

#### 評価

1時間の学習を振り返り、「本時のねらいが達成されているか？」という視点で評価しましょう。評価規準は、各教科等の特性を生かした表記を参考にし、評価方法も記述します。